午後１時30分　開始

【広報広聴課長】　13時30分になりましたので、ただいまより市長の定例記者会見を始めさせていただきます。

毎回申し上げておりますが、この記者会見の模様につきましては録音いたしております。発言の際につきましては、マイクを通しての発言でお願いいたしたいと思います。

本日の進行につきましては、お手元に配付の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後事業発表を行いたいと思います。

質問につきましては、最初は事業発表についてお願いいたしたいと思います。その発表に係る質疑終了の後に、次第の３番目、フリーの質疑応答へと進行したく思っております。

終了は14時30分を予定いたしておりますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは市長、よろしくお願いいたします。

【市長】　それでは７月の定例記者会見であります。

もう早いもので下半期に入ったわけでございまして、今年もあと半年ということであります。

ところで、梅雨入りしておりますけれども、降雨量が非常に少ないというデータも出ておりますし、実感をいたしております。

ただ、ゲリラ豪雨といいますか、そういうものの発生もあるんではないかということで、今、大変危惧もいたしておりまして、私どももそういう情報をしっかり収集しながら、ぜひ災害が起こらないように、また起きても最小限にとめられるように頑張ってまいりたい、このようにも思っているところであります。

また、新型インフルエンザにつきましても、まだ全国で、たしか福井県を含めて４県ぐらいが発生をしていないということで、ただ単に人口が少ないからかなというようなことも思いますけれども、いずれは出てくるんじゃないかなという気もしておりますし、特に秋以降のそういうシーズンにまた大変危惧もされますので、私どもも、これも十分に警戒をしながら情報収集をして拡大の防止に努めたい、このようにも思っているところであります。

それでは、座りまして、発表項目から説明させていただきます。

まず、敦賀短期大学におきます瀬戸内寂聴先生の講演会の開催であります。これはご承知のとおり、瀬戸内寂聴先生は、敦賀短期大学、まだ女子短期大学の時代でありましたけれども、第２代の学長ということでお務めをいただいた方でございまして、学長退任以来、実に17年ぶりに開催がされるわけであります。学校関係者が瀬戸内寂聴先生にちょうどアポイントもとれたこともございまして、今の短大、厳しい状況にあるというお話等もさせていただき、瀬戸内先生も、それじゃ私は応援に行ってあげるというような形で今回実現することになったところでございます。そういう意味で、またいろんな皆さん方、また市民の皆さん方に短大に関心を持っていただけるというふうに思いますし、またマスコミの皆さん方のお力も借りて、ぜひいいＰＲができたらいいなと。それと、在学生もおりますけれども、卒業生もたくさんおりますので、そういう皆さん方にもしっかりとした意識を持っていただいて、ここの短大の発展につなげていきたい、このように思っておりまして、ぜひ多数の皆さん方にご参加をいただきたい、このように思っております。

日時、会場につきましては記載のとおりでございますし、演題が「若き日にバラをつめ」ということで、この会場にまだ摘める方もいらっしゃいますけれども、余り摘めないような者もこのここに控えておるんですが、私も演題を見て、なかなかおもしろい演題だなということで興味を持っておりますので、ぜひ皆さん方にも来ていただいて、また取材もしていただければありがたい、このように思っているところでございます。

次に、松原海水浴場を含めての市営海水浴場の開設でございます。

従来は、７月５日ということで日が決まっていたんですけれども、数年ほど前だったと思いますが、やはり人のたくさん集まるときにしたほうがいいんじゃないかということを私も思いまして、今年はちょうど７月５日、日曜日になりますけれども、日曜日から８月20日まで市営海水浴場として開設をいたすところでございます。

ご承知のとおり、私どもの観光の一つの中心でもあるわけでございますし、三大松原も

ある松原のところで、そういうイベントを例年恒例でありますけれども開催をしたい、このように思っております。

ただ、こういうレジャーの多様化等もございまして、私どもの若い時分、子供の時分というのは松原海水浴場でも人があふれんばかりの、要するに芋の子を洗うというような状況でたくさんの人が泳いでおったのを記憶しておりますけれども、近年はかなり少なくなっていることも事実であります。特に、健康問題で紫外線を浴びるとどうのというようなことも非常によく言われておりまして、なかなか紫外線の対策などにも気を使う方も多うございまして、なかなか海へ来ていただけない。

それと、子供たちも都市部を含めてプールというものがものすごく完備しているものですから、やはりプールで泳いでいる子というのは、塩水につかると何かぬるっとして気持ち悪いということを言われる。私は逆で、そんな塩水で消毒された水で泳いだほうがよっぽど衛生的ですけれども、あんな狭いところに、大勢の皆さんが入ったところに入るなんてとても私は不衛生だというふうに私の勝手な認識で思っているんですが、なかなか現実はこういう海水浴というのは減ってきていることも事実でございます。何とか私も工夫を凝らしていろんな遊べる遊具なども設置をして、これからやはり自然と触れ合うことが大事だということを訴えて、多くの皆さん方に来ていただきますように努力をしていきたい、このようにも思います。

市内16カ所があるわけでございますが、それも含めまして、各地区の観光協会等によりまして、同じ日にかけて、また12日の日曜日までにかけて順次、それぞれがオープンしていく、このように思っております。

あとは花火大会等々ございますし、今、水島の話も出ておりましたけれども、非常に水島、人気があります。今日は何か清掃活動をしていただいているということで、それぞれのボランティアの皆さん方で本当にきれいにしていただいておりますけれども、やはり問題は、あれだけ侵食をされる場所でありますので、今、県等にも働きかけをして、何とかやはり恒久的な対策をとるべく私ども行政としても努力をしている真っ最中でもございます。

次に、七夕のライトダウンの実施ということであります。

やはり省エネ、また地球の温暖化防止等々の環境問題に対応するということもございまして、日常的に、今の日本というのは宇宙から見ると、非常に日本のところとか韓国のほうではものすごく明るい。それだけ、夜電力を消費していることも事実でございまして、これも生活上、また防犯上必要なものは必要であるわけでありますが、できる限り一度電気を落して、やはり暗い中で、ただ、この７日が七夕さんが見れるほど天気がいいかなというちょっと心配はございますけれども、そういう啓発の意味も込めてライトダウンのキャンペーンを行いたい、このようにも思っておりまして、ぜひ私ども市の施設もそうでありますけれども、またいろんな一般の職場、また家庭のほうでも、このライトダウンにご協力をいただいて、省エネ、また環境問題に対する意識を深めていただく大変いい企画だというように思っているところでございます。実施日時等につきましては、ここに記載のとおりでございまして、ぜひ、またマスコミの皆さん方にはＰＲをひとつお願いしたい、このように思っているところであります。

パンフレット等につきましても、お手元に配付がされているというように存じます。

次は、私、シンガポールのほうに出向きましてのポートセールスでございます。渡航先等、期間も記載のとおりでございますけれども、訪問先もたくさん実はございまして、このような日程で行ってまいります。

これは、今年の６月19日に開催をされました敦賀港鞠山南地区多目的国際ターミナル利活用勉強会というのがございましたけれども、その時に講師として来ていただきましたＺＩＭジャパンの代表取締役社長でありますチャンさんだと思いますが、その方、何度か私も東京のＺＩＭにもお伺いをいたしているところでございますけれども、新たな航路誘致に関する情報提供をいただきまして、その情報提供をもとに、船会社等を紹介するのにぜひ一度行ったらどうだということのご提案をいただき、今後の航路誘致につなげればという思いで行ってまいるところでございます。

お話によれば、今、この船会社は特にシンガポール、上海、そして沖縄へ行っているそ

うなんですけれども、日本の本土にも入りたいというような希望もあるというようなことも伺っておりまして、そういう中で、ぜひ敦賀の港をというような意味も込めて行ってまいりまして、たくさんの船会社行きますけれども、そういう意味を込めてしっかりと敦賀の港の宣伝をしていきたい、このように思っております。

また、このＺＩＭジャパンのつながり、ＺＩＭというのはイスラエル船籍の所有するイスラエルの船会社でございます。これは、ご承知の杉原千畝さんのいろんな関係で、イスラエル大使館へ私も何度か訪問をいたしましたけれども、そのときにこのＺＩＭという会社を紹介いただきまして、将来的な大型船が実は日本海を多く渡っていっております。これはアメリカへ行く航路ですけれども、日本海を通ることによって非常に距離が短くなるというような利点があるものですから、実は日本海に５万トン、６万トンの大きな船が航行しているわけではありますけれども、私どもの希望とすれば、アメリカ航路、またそういうヨーロッパとつながる中で、おかげさんでこの敦賀の港は５万トン、６万トン、８万トンの船が入ることのできる天然の良港を有しておりますし、国際的な意味の国際ターミナルもそれに対応できる港づくりを行っておりますので、そういう意味で、日本へのそういう寄港なども将来的には可能か、こういうことも探りにいきたい、このようにも思っているところで、ポートセールスに行ってまいる所存でございます。

次に、姉妹都市等の子供たちへの親善派遣、また受け入れでございます。

日時、このとおりでありまして、これは例年でありますけれども、今年は韓国の東海市のほうから子供たちを受け入れ、また東海市のほうに私どもの子供たちを派遣するというものでございます。

次に、敦賀市の海難救助訓練の実施でございます。これも例年行っておりますけれども、夏場、マリーンレジャーが本格化をいたしまして、多くの皆様方が海でのレジャーを楽しむわけでございますけれども、反面、海難事故もやはり増加傾向にございまして、例年、いろんな事故なども報告をされているところでございます。

事故がないにこしたことはございませんし、そういう意味でそういう啓発はもちろんやっていくつもりでありますけれども、万が一発生したときのいち早い救助、特に海難救助というのは１分１秒の世界であります。陸上であれば、息はできますけれども、海で遭難しますと、沈んでしまえば本当に１、２分で命が危ういという状況でありますので、素早い、迅速な救助活動が必要でございます。そういう意味を込めて毎年行っておりますけれども、今年もこの記載の日程の中で、場所も例年同じでございます。関係機関も、たくさんの関係の皆さん方に参加をいただきながら実施をする予定でございます。

先ほど言いましたけれども、事故を少なくする。これはまた、ボートに乗る、また利用する皆さん方がそういう対策もとっていただかなくちゃならんわけでありますので、その辺も含めてＰＲをしてまいりたい、このように思っております。

次に、「奥の細道」敦賀サミットがこの秋に開催されるわけでございますけれども、それに先立ちましてのプレ企画ということで、奥の細道の旅で、訪れたさまざまな土地でありますとか、敦賀での足跡を写真パネルで紹介する展示を行いたい。これは来やすい場所ということで、この市役所の１階にあります市民ギャラリーであります。

また、解説などもしたいということで、これに記載してございますけれども、いずれも月曜日でございますが、ちょうどお昼休みの時間を利用しまして、学芸員によっていろんな説明をする機会を設けておりますので、またご覧になっていただきたい、このように思っております。

最後になると思いますけれども、日本女子ソフトボールリーグ１部のトップチームによります招待試合であります。

日本女子ソフトボール、昨年の北京五輪での大変な活躍といいますか、感動を与えていただいたものでありまして、非常に今、注目度も高いスポーツでございます。そういうチームをお迎えして。これは、きらめきスタジアムがちょうど開場10年になりますので、一つの記念事業でもございます。７月12日、もう間もなくでありますけれども、この日程の中で開催をいたしたいというように思っております。また、多くの皆さん方に来ていただきたいなというふうに思います。

昨年の日本代表選手ということで、北京に行った皆さん方も来ているところでございま

す。
　私のほうからは以上です。
【広報広聴課長】　ありがとうございました。
　それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました８項目につきまして質問を受けたいと思います。
　最初に、幹事社さんのほうからお願いいたします。
【記者】　まず１点確認したいんですが、東海市との交流事業、これは最終的にはインフルエンザの影響はなかったということでしょうか。
【教育長】　修学旅行もきちっとマスクとかしてくれまして、疑いすらなかったです。
【記者】　それとあと、ポートセールスで１点伺いたいんですが、これは、いわゆる荷物のほうじゃなくて船会社ですよね。これのポートセールスの最終的な狙いというのは航路の開設ということになるんでしょうか。
【市長】　はい、おっしゃるとおりです。先ほど言いましたように、かなり大きな船会社でありますので。一つは、中国航路、琿春のほうは今いろいろと取り組んでおりますけれども、やはり大きな上海との結びつきというのは非常に重要でありますので、そういう意味で、あくまでもポートセールスの中での航路を狙った訪問であります。
【記者】　現実的な話としては、この船会社の持っている上海との航路という話になるんですか。シンガポールとの直行便を考えていらっしゃるんですか。
【市長】　これは、先ほど言いましたように、シンガポール、上海、沖縄というルートがあるものですから、そこに私どもの情報では日本の本土と結びたい航路があるということがありましたので、もちろんいろんな候補があると思いますけれども、それでは、敦賀というのは比較的すいているし、大きな船も入れます。それと、日本でいうと、ちょうどど真ん中にあるところですのでいろんなところにつながりを持てるという、そういうＰＲをしにいきたいと思っています。
　恐らく世界から見ると、敦賀というのはまだほとんど知られていないのが現状でありますので。歴史的に見ればかなり古い港なんですけれども、今の現況の中でいけば、当然、世界から見れば、横浜、神戸、東京、名古屋とか出てきても、なかなか敦賀というのは名前が売れていませんから、そういう意味も含めて十分宣伝をしていきたいと思っています。
【記者】　ポートセールスの関連なんですけれども、今後、何回ぐらいセールス、シンガポールへ伺って、大体いつぐらいにできればいいなという見通しのようなものは。
【市長】　まず、その見通しを探りにという、初めてでございますので、せっかくいただいた情報の中でどのように実を結ぶか、行ったから直ちに実を結ぶか結ばないかというのは、今断言はできません。そういうことも含めて可能性調査をしていきたいと思います。
【記者】　同じポートセールスですけれども、どんな荷主がシンガポールにはありそうなんでしょうか。
【市長】　シンガポール自体というのは、そんな荷物のあるところではないと思います。要するに、トランシップです。世界のいろんな荷物が入り、そこで積みかえをしてまた行く中心の、シンガポールというのはご承知のように200万ぐらいの人口の国です。私も一度だけ、県会議員の時分に視察で行かせていただいて行ったきりなんですけれども、きれいな国だったな。マーライオンはちっちゃかったなというのをちょっと覚えておるんですけれども、そういう意味では、世界の流通の中心であり、あくまでもシンガポール自体に荷物があるという場所ではないということは今認識はしておりまして、先ほど言いました、やはり中国との結びつきなども含めて将来的な航路の模索をしにいくということで、また帰ってきましたらご報告はさせていただきたいと思っています。
【記者】　シンガポールでの初ポートセールスになるわけですか。
【市長】　はい、初めてです。
【広報広聴課長】　それでは報道各社、質問をお受けしたいと思います。
　質問がありましたら挙手をお願いしたいと思います。
【記者】　今ポートセールスの延長で、何人ぐらいで今行かれる、２人なんですけれども、市単独という考え方でいいんですか。
【市長】　私は貿易振興会の会長でもありますので、貿易振興会と、あと国際交流課の課

長補佐がおります。実質的には秘書課長も行きますから３名になりますし、民間のほうからも熱意のある方、行くということを言っておりますので、総勢では４名ぐらいになるんじゃないかと思います。
【記者】　今、検討を進めている管理運営会社が11月ぐらいにという話があって、どちらかというと、市長さんはポートセールスに熱心なんだけれども、県のほうが非常に動きが鈍いと。特に知事が全然ポートセールスについて腰が重い。まして管理運営会社についても、どうも県の出してくる提案というのは現実的にどうなんだろうという思いがあって、その辺について、あれだけの港をどういうふうにして活性化するかというのは大きなテーマなのにもかかわらず、市がこうやって動かれているんだけれども、その辺が見えてこないんで、県との話し合いというのはどこまで進んでいますか。
【市長】　私どもも、これはあくまでも県の管理する敦賀港でありますので、ぜひ県としても動いてほしいということで常々お願いもしていますし、私どもはそれを有する地元でありますから、地元の首長という立場で、また敦賀市の貿易振興会の会長という立場でもありますので、これは私自身もしっかり努力することは当然でありますので頑張っていきます。当然、県にもお話をしながら、昨日も大阪の福井県人会がございまして、そちらのほうでも知事とお会いしましたので、このような話をしながら、ぜひ敦賀港の振興、イコール、これは福井県の発展に必ずつながりますので、そういうお話をして、今後とも連携をとっていこうというようなことでお願いをしてきたばかりでございますので、恐らく知事のほうも頑張っていただけるものというふうに確信をいたしております。
【広報広聴課長】　ほかに発表項目につきまして質問ございませんでしょうか。本日、発表項目８項目あるんですが。
【記者】　市長、ソフトボールは始球式とか予定されていますか。
【市長】　それが、ちょうど戦没者、戦災死没者の慰霊祭が10時に入っていまして、私はそちらのほうに行かなきゃなりませんので。本当はぴゅーっと投げたかったんですけれども、その日は行けません。
【広報広聴課長】　ほかにございませんか。
　ないようでしたら、次の次第３番目のフリーの質疑応答に入りたいと思います。
　これも最初に幹事社さんのほうからお願いします。
【記者】　市長にお伺いします。
　もう衆院選間近になっていますけれども、その中で、今回の衆院選の特徴と言えることは、自治体の首長がかなり動きが活発であると。首長連合みたいなものを大阪府の橋下知事なんか提唱していますけれども、首長の立場としてそういう動きをどう思うか。いわゆる国に物申す首長が増えているのをどう思うかという１点と、この３区の選挙区がどうのこうのというよりは、この国政に対して、地方の首長として、衆院選に際して注文をつけたいというか、こういうところを訴えて欲しいとか、こういうところを訴えるところを支持したいとか、そういったあたりをお聞かせいただきたい。
【市長】　まず、大阪の橋下知事などがいろんな話をしておりますけれども、知事レベルですとそういう話もできるかもしれませんけれども、私ども小さな１自治体の中ではなかなかいろんな条件も違いますので、こちらからマニフェストを突きつけて、こうやらなくちゃできないというようなことはまず考えられないと私は思っておりますし、きょうのニュースでも、賛同したのは大阪府下でお二人だけが賛同されたという情報も出ておりましたから、なかなかこれは大きなところへ行っても、同じ大阪府の中でもいろんな温度差があるなということを感じましたので、恐らくそれが普通じゃないかというふうに感じたところであります。
　それと、私ども３区というところがありますし、今回の対応では、できるだけ日程は早く決めていただきませんと。といいますのは、会場が大変なんです。夏場は子供たちのいろんなイベントがありますから、投票日が決まりますと、投票所から開票する場所も全部押えないかんもので、もし日が何日と決まった場合に、もし借りているところに交渉して日を変えてもらったりという作業があるもので、できる限り早くその日を決めていただきたいなというふうに思います。私ども統一地方選挙とか、参議院の選挙ですと日程が早く決まりますのでそういう段取りがしやすいんですが、非常に今回、まだいろんな説が出て

いるだけで決まらんものですから、一体どうしようかなという思いが実はございます。
　それと、今回の選挙の争点といいますか、やはり政権交代があったり、いろんなマニフェストの中ございますけれども、私どももやはりある程度の地方分権といいながら、私ども地方になりますと今度は分権された県のところとの地方分権問題も出てきますことから、その辺はしっかり見きわめていきたいなというふうに思います。
　それと、私どもの立場でいきますと、やはり今まで政権与党にいろんなことを実はお願いしてきたところであります。道路の問題であったり、原子力の問題であったり、港湾の問題であったり、ずっと政府・与党にお願いしてきておる立場の中で、人間として世話になって、何か物になったらどうだということは、非常に私は、人間としてやりにくいなというふうに実は思っております。
　また、ある候補はやはり地元の方でもございますし、皆さん方にお願いしておって、選挙になったら、いや知りませんというようなことは私はできない人間だなというふうに自分では思っております。
【記者】　もんじゅ視察の狙いは何なんでしょうか。
【市長】　もんじゅも今いろいろ議論もされておりますし、運転再開の時期もずれにずれてきたということ。それと、国の耐震の問題もございますし。ただ、もんじゅというものは、私はいつも思っておりますが、大事な研究機関の一つであります。エネルギーを考えたときに、日本の国情を考えたときに、また人によっては、もうそんなもん進んでやらんでもいいと言う人もいるんですけれども、私はやはり原子力と共存共栄をしていこうというスタンスの中で、もんじゅの位置づけというのは極めて重要であるというふうに思っている一人でありまして、そういう意味の中で、やはり現場にいる皆さん方の士気というのは、これ非常に大事であります。そこの一人一人の皆さん方のやる気というものがいろんな面につながってきますし、それが安心と、また安全面でもつながることが多うございますので、こういうような状況の中で一度訪問して、私ども地元の、やはり市民の皆さん方、議会で出ているお話のこともお話をし、激励もさせていただいて、どのような結果が出るかわかりませんけれども、やはりモチベーションを下げることなく、自分たちは誇りを持ってもんじゅというものに対して取り組んでいくという姿勢があるのか、ないのかということも確かめに行ってみたいなと思っております。
【広報広聴課長】　それでは、各社へお伺いしたいと思います。質問のある方、挙手をお願いします。
【記者】　もんじゅに行かれるの、何年ぶりぐらい。
【市長】　３年ぐらい前に一度行きました。
【記者】　当然、この間には動いているはずだったんですもんね。稼働しているはずだったんですもんね。この３年間。
　もんじゅの見通しについては、市長としてなかなか難しいんでしょうけれども、どういうふうに今の現状というのを、耐震のこともあるし、いろいろあれなんですけれども、市民の声としては本当に動くのかというふうな気持ちが非常に強いので、春にもとか夏にもとかというううわさばっかりが出ている中で、どういうふうに受けとめられていますか。
【市長】　おっしゃるとおりで、そういう心配もあることは事実でしょうし、あって当然かなというふうにも思います。
　そこで、私も従来どおり言っていますとおり、ああいう施設というのは安全に、安定に稼働して、そしてその成果を出すのが本来の姿だというふうに思います。ただ、その条件にはやはり安全なものではなくてはなりませんし、過去にいろんな苦い経験もされたわけでありますので、そういう体制がどのようになってきたか、これからどうすべきであるかという姿を示す必要もあります。
　それと、今、国の耐震の問題が出ていますけれども、これはまだはっきりしていませんので、何とも申せませんけれども、そういうものをクリアして、しっかりとしたいい形で先ほど言いました本来の姿になっていくのが自然、私は当たり前だというふうに思っている一人でございますので、そういう点で不安を持つ方もいらっしゃることは事実であります。私も３年行っていませんから、やはり現場へ行って、現場の空気を、私は読む力がないかもしれませんけれども、現場で、やはり百聞は一見にしかずという気持ちの中で明日

は行ってきたいなと思っています。
【企画政策部長】　前回行きましたのが平成18年１月23日でございます。
【記者】　それと、船だまりの、中心市街地活性化のほうで９月にも国に申請なさるという話を前か前の会見でも述べられた。そのスケジュールは変わっていないのか、それとも年明けにもという。こういう世情なので、国の体制が変わると、民主党政権になったりするとまたいろいろややこしいなというううわさもあるので、早目になさるのかというその辺の政治的判断と、今現状がどこまで動いているのかの簡単な概略を説明していただけますでしょうか。
【副市長】　これは６月議会にも申し上げているんですけれども、一日でも早くということで答弁させていただいたと思っています。
　次回は９月なんですけれども、当面は９月目標、それからその先には１月、２月の線があるわけで。ご承知のとおり、今、民のほうで一生懸命やろうとしているんですが、なかなかその形をきちっとスクラムが組めない、そのレベルまで行っていないということです。実は、今日もそうなんですけれども、その中で市役所も民だけに任せておるのもなかなか日程的に厳しいものですから、今、そこに入り込んで、商工会議所も巻き込んで、それから例の敦賀酒造さんをおやりいただく方にも入っていただいて、同じテーブルで今話し合いを精力的に進めるという形になっております。
　今申し上げたいのは、６月議会で答弁したとおり一日でも早くということが、今公で申し上げられることだというふうに感じております。
【記者】　ちょっと手前みその話になるんですが、嶺南の広域行政組合でフジテレビのお台場冒険王に出展されるんですけれども、小浜のスケジュールはちょっと出ているんですが、敦賀も何かやられるんだと思うんですよ。そこら辺決まっていましたらどういうことをされるのか教えていただきたいのと。あと、地元でもそれに絡んで計画が何かあったりするのか、ちょっと。
【市長】　私どもも、大体期間、嶺南行政組合で６つの市町で分担を決めて出展するのが決まりました。私も恐らく最終というか、後半の部分にということで、今、内容についてはいろいろ詰めています。なかなかブースもあんまり、ものすごく制約があるんですね。あれはしたらあかん、これしたらあかんというので。ちょっとまた言うておいてほしいんですけれども、非常に厳しいもので、あれで一夏に300万人といいましたか、１日10万人は来るというところでありますので、まあ400万、500万の世界ですので、ああいうところで人の来るだけのイベントというのは、恐らく私ども田舎にすると初めてですから、少し戸惑いはありますけれども、しっかり情報を入れて、いい形で、せっかく出させていだたきますので、しっかりＰＲできるように頑張っていきたいと思っています。
【記者】　内容はまだ決まっていないんですか。
【市長】　内容は大体煮詰まってはきていますけれども、まだこうでこうでというところまではまだ行ってません。
【記者】　テントの１周年で何をするかというのがこれに全然出ていないんですけれども、何をするんですか。
【市長】　これは例の事故ということでありますから、たしか７月27日が１周年になるというふうに思います。私どもは今、要するに、民間の前の実行委員会の皆さん方が計画をしていますので、そういう中で、市としては、行政としてなかなかできんものですから、応援隊ということで、市の職員さんなども応援をして、今聞いているお話の中ではプレートをつくってやはり風化させないでおこうというものがございますので、そういうものをボランティアとしてみんなで気持ちを募って、心を集めてやろうということを計画されておりますので、そういうものに、市としてじゃなくて、一市民としてみんなが応援する体制を今組んでおります。そういうものにしっかりと協力していきたいというふうには思っております。
【記者】　市長も出るんですよね。
【市長】　私は、やはり市長という立場もありますし、一個人として、それがあれば出たいと思っています。
【記者】　それは何ですか、慰霊みたいなものなんですか。そのプレート設置というのは

どういう形になっているんですか。よくわからないんですけれども。
【市長】　これは、実行委員会が計画をしておりますので、要するに、何かアメリカなどへ行くとプレートの下に、余り大きいものじゃなくて、プレートにメモリアルみたいなものでやるということですから、余り慰霊とかそういう要素は、僕は少ないんじゃないかなというふうに実は見ていますけれども、現実は、もしあれでしたら実行委員会の方に聞いていただければ詳細はわかるというふうに思います。
【記者】　木の芽川で魚が100匹ぐらい死んだと。最終処分場のところで。県が言うには、内水面総合センターで原因と死んだ魚とかの特定に一、二カ月かかると。そうすると、漁協の組合の方が言うには、アユ釣りのシーズンが終わってしまうらしいんです。２カ月も待っていたら。その間、県の管理なんですけれども、市として独自に調査をかけたりすることはしないんですか。
【市長】　こういう例はシーズンになると必ず実はありまして、アユが浮いたり、魚が浮いたりということは、木の芽でもありました、黒河のほうでもありまして、酸素不足が原因であったりいろいろあるんですけれども、そのあたりが、やはり県の管轄で、今調査で何でそんな時間かかるんかねというふうに思うんですけれども、専門家がおりますから。
【副市長】　おっしゃるとおり、今市長も申し上げたとおり、私、河川課長をしとったときも、笙の川の上流なんかでは、やっぱり敦賀の場合、結構多いんですね。それで、結果的には、それを福井の衛研まで持っていくんですけれども、いろいろ鮮度の問題も含めて原因はほとんどわかりません。結局、酸欠であったのか、何か有害物質を誰かが流したとか。
　私がおった任期中では、一回も原因究明がなされませんでした。それをパトロールしたということはありますけれども、それもやっぱり限界があって、やはり原因不明のままずっと来ておるんですね。
　今回の場合は木の芽川ということですけれども、今、多分、衛研に送って、その結果が少し時間がかかるということだと思いますけれども、なかなか余り期待はできないと思います。すぐ我々行政の者が行って調べてどうこうなるものでもないというふうに思いますし、ここはやっぱり管理者であるとか、あるいはうちの保健所、そういうところにやっぱり委ねていくしかないかなというふうに思っております。
【記者】　奥の細道にバショさんが出ていましたので、ツヌガ君のことを伺いたいんですけれども。前回伺ったときに第２のひこにゃんを目指すとおっしゃっていましたので、私もゆるキャラの先進地である彦根市のほうにちょっと問い合わせをしてみまして、幾つか気になったことがあったんですけれども。
　まず、彦根城のイベントで土、日、祝日には確実にひこにゃんを出すようにしていると。もう一つは、着ぐるみは複数体あるけれども、決して同じ時間帯には登場させないと、ひこにゃんはあくまで１つであるというブランドを守るのが非常に大事だという説明を聞いたんですけれども、第２のひこにゃんを目指すんだったら、もっとツヌガ君も活用してあげたらいいんじゃないかなと私は思うんですけれども、そういう、何か定期的なアピールというのはお考えないんですか。
【市長】　今、おっしゃるとおり、やはり出番があることによって認知度が上がりますので、この暑い時期、ぬいぐるみを着るのが実は大変みたいでして、中に入る方は本当に気の毒なんですが、ぜひ、私どものほうからも、少し出番を増やしていろんなイベントに出るようにということでお願いをしていきたいなというふうに思います。
　バショさんにつきましては、これはまだ、今のところぬいぐるみ製作の予定はないということでありますので、本番に向けてはこれは何かあるのか、ないのか。
　今のところはないそうなんですが、見るからにかわいらしいキャラクターなんで、こういう印刷上の中で活躍をしていただきたいと思っております。
【副市長】　ちょっと追加で言わせていただくと、ツヌガ君は、今、ＴＨＡＰというところがありますけれども、そこでストラップとか、あるいは小物みたいなものの試作品は実は始まっておりまして、結構売ってもいいなというレベルまでやっと来ているんです。
　やっぱりＮＰＯで、いわゆるコミュニティビジネスということをやるべきだと思いますので、協力できるところはそういうところで、例えば駅前の観光案内所とか、大量的に作

れるものならそういったところでも行政としてできることはやっていきたいというふうに思っています。
【記者】　２つお聞きしたいんですけれども、まず敦賀駅舎のことで。今日、僕、ちょっと取材はしてないんでわからないんですけれども、新幹線の与党ＰＴがあって、その中で福井テレビさんを見ていたら、前倒しというか、お金をＪＲから借りてやるやつを新規着工に充ててという意見も出ているみたいで、どうも敦賀の駅部とか新しいところというのは、政権がかわったりとか、もし自民党がちょっと負けたりとかするとそういう流れも変わってくるのかなと思うんですけれども、９月とか12月とかの議会でそういうことができそうな感じなんですか。今の流れというか、どういうふうに今お考えなんでしょうか、今後の予定としては。
【市長】　まず、駅舎の改築は、前も言いましたように、また議会でも説明させていただいたように、９月には予算計上したいと思っています。それは、新幹線、例えば駅部が認可になったら認可になったでプラスをして出せるようにしますし、もし仮に認可にならない場合は、その部分を外して上程できるような形で今仕上げていますので。基本的に、今は選挙もありますし、政権のこともありますし、与党ＰＴのこともありますし、いろんなことある中で、それを全部取り込んで計画すると、要するに計画ではなくなってしまいますから、それをいただいたらいただいたでプラスできる、もしなければないでそのまま改築という方法のことができる形で今計画を練っています。新幹線問題が、私どもは早く認可をいただいて、それがプラスとして上程できれば一番いいんですけれども、ない場合でもできるような形で今整えていこうと思っています。
【記者】　もう一つ、これは新幹線とは別なんですけれども、風力発電のことで、この前議会とかに説明をしたんですけれども、僕らは非公開で出れなかったんですけれども、議員さんなんかに聞くと、補助金の申請も行ってしまったと。福井新聞の報道にも書かれていましたけれども。
　前回の説明なんかというのは、今まで知っているようなこと、何十キロワットの、何千キロワットの何基立てるとか、どうするこうするとかになっていて、でも、議員さんの説明の中で、地元の同意というか、地元が早く進めろというから今回やったんやという話になったんですけれども、そのことについては市長はどういうふうに思われますか。思われるというか、多分、市としてはそういうふうに意見を言ったとかそういうことはないと思うんですけれども、そういうことがないままに物事が進んでいくような雰囲気というか、なっているじゃないですか。
【市長】　やはり基本的には物事を順序立てていくほうが一番いいですし、私どもも、前もある議員さんの質問にお答えしたとおり、それはちょっと遺憾であるというお答えをしたとおりでありまして。
　ただ、ついせんだってもあわら市のほうでも着工されたところもあるようであります。一般的には風力といいますとイメージ的にも非常にクリーンなエネルギーであるということも言えますし、あれは風さえあれば、朝昼晩関係なしに発電もできるということもございまして、今の環境問題を考えればいいんですけれども、いかなるいいものであっても、順序立てだけはしっかりやって説明をして、みんなで前へ進めませんと、順番が違ったり、手続上不備があると、これは少しいかがなものかと言わざるを得ないと思っています。
【記者】　そうしますと、補助金の申請をしたところというのは、いろいろ審査をする、一般の社団法人のところが今回は請け負ってやっているんですけれども、市とかにもお話を伺うという、担当者に多分ヒアリングをするというふうに、実際、風力発電の会社側が出したことが、それで合っているかどうかの確認をするためにヒアリングを行うと言ったんですけれども、そうすると、そのヒアリングに答えても、地元で進めているという話があったら、うちではそういうことはないというような話になるんですか。どういうふうな説明に。
【企画政策部長】　その点につきましては、もう新聞等でご存じかと思いますが、環境審議会というところに諮りまして、その審議会の結果がまだ出てございません。その結果が出た時点でヒアリングがあれば、その結果をもとにヒアリングに臨むということを考えてございます。

【記者】　プルサーマル交付金についてなんですけれども、この春で打ち切りということが出ていまして、結構、そのトップランナー方式というのも馬にニンジン方式というと結構批判されてずっときたんですが、改めてこの時期に打ち切りになったということに対する、全原協の会長としての見解、それともう一つ、２号機でいずれ15年までにやるということで、敦賀市もいずれはその対象になってくるわけですが、そういう状況を受けて、この時期の打ち切りということに対して、敦賀市の市長としてどう思うのかというところを。
【市長】　このトップランナー方式というのは、よく国も使うし、何とか早くしたいという思いでやってきたと思うんですけれども、基本的には全原協の立場ではこれは反対です。要するに、たとえ後発であってもそれはいろんな事情もありますから、先にしたところはあげるけど、あとのところはいかんよと言っても、理屈的に同じことをするんですから。全く違うことをするなら別ですけれども、プルサーマルというＭＯＸ燃料を入れて、そこで燃やしていくんで、やることは一緒なので、それはあくまでも復活要求というものはしていきたいというふうに思います。それが原点で思っていますので、私、敦賀市長としてもそれは復活をしていくように努力していきたいなと思っています。
　まだ私どもは具体的な相談といいますか、やるということは聞いていないもんですから、答えようのないところも今まであったんですけれども、いずれ正式にきたときには、やはり国としてもいろんな交付金やってるならうちもそうでないと、それはなかなか市民は納得しませんよということのお話をしなくちゃならんのかなとは思ってます。
【記者】　明日のもんじゅですけれども、先ほどなぜ行くかという理由は伺ったんですが、なぜ明日なんでしょう。何か理由があるんですか。
【市長】　日程のこともありまして、私も近いうちにシンガポールへ行ったりとかいろんな日程がありますから、あしたちょうど日程的にもあいていましたので。
　それと、明日、安全大会があるそうなんです。たくさん人が寄っていますので、安全大会は私は参加できませんけれども、その後に行くというちょうど日程になったと聞いています。
　わざわざ、前も行ったときもちょっと職員さん集まってくれたんです。そういう手間も要りませんので、ちょうど明日のその時間、たしか10時15分ぐらいに僕が入るようになっていますから。９時か。何か８時半過ぎから安全大会というのを。あれ、毎月やっとるんやな。
【企画政策部技監】　安全大会ですけれども、これは１年間に１回、ああいった大きい大会をやるということで、ちょうど７月１日から１週間、安全週間が開催されるということで、その前のほうで安全大会を開催するというふうに聞いております。
【記者】　それと、今回の視察はあちら側からどうぞ来てくださいという話なのか、それとも市長が行きたいという話なのか、どっちなのか。
【市長】　基本的には私のほうから、一度、もう３年も行っていませんし、今、がたがたと言うと変ですけれども、している状況の中で、百聞は一見にしかずということで、一度見に行きたいということを僕が言いましたら、ちょうど明日に大会があって皆集まっているので、そこでそういう話をしてもらったほうがいいんじゃないかということで日程が決まりました。
【記者】　やっぱりこの時期に行くということは、早く運転再開をとかという思いもあるんでしょうか。
【市長】　いや、私は決して運転再開を急がすつもりはございません。これは言いましたように、耐震の問題等いろいろありますので。
　それよりもさっき言いましたモチベーションが伸びてきて、中で働いている皆さん方というのはそれぞれ与えられた仕事を一生懸命やっている立場の人なんですね。安全面をチェックしたり。そういう皆さん方の意識というのはやっぱり下げるべきじゃないと思います。そこで、一つの激励も、こういう状況であるけれども、安心・安全、要するに確保されたら、もんじゅというのは社会から期待されているということは、私もフランスなりいろんな学者からも聞いていますので、そういう立場の中、やっぱり心配はあるけれども、職務だけはしっかりと。判断はまた判断として私どもはしますけどというようなことで。明日、また皆さん、当然、取材に来られるんでしょう。そのときにまた聞いていただけば

わかります。
【広報広聴課長】　ほかにございますか。
　それでは、ないようですので、これにて本日の定例記者会見は終了させていただきます。ありがとうございました。
【市長】　どうもありがとうございました。

午後２時23分　終了